

テーマ 色

大塩 礼子
にじぐみ

「色」をテーマとした理由や背景

- 「どんな色がすき」の歌遊びをきっかけに、色に対する関心を持つ子が増え、「色の歌やって」と保育者にリクエストし、歌いながら色探しをして遊んでいた。
- クレヨン画遊びでは、描くことよりも、クレヨンの色そのものに興味があり、クレヨンを並べてみる、転がしてみるなどして観察していた。
- 自分の服や友だちの服の色や模様について指さしで伝える様子や、散歩などで見つけたものの色を「赤い実」「黄色い花」「お空青い」「青い車」など言葉で表現することが増えてきた。
- 様々な素材で、色に浸って感じる体験を深めたい。そして、1歳クラスの子どもたちがどのように色を探求していくのか知りたい。

活動スケジュール

第1回	絵の具遊び
第2回	色水遊び
第3回	混色遊び
第4回	雪絵の具
第5回	カラーセロハン遊び

秋色絵の具遊び

(9月下旬)

期待する経験

- 日々の散歩の中で、近隣の木々の葉の色づく様子を観察し、その変化を子どもと共有していた。散歩中に目にする色を実際に絵の具で触れてみる。
- 筆や手で描きながら混色し、色の変化を感じる
- 大きな紙にのびのびと描き、色の広がりを楽しむ
- 画用紙に自ら描くことで、色で埋め尽くされていくのを感じる。



環境設定

- 準備物：ロール紙 画用紙 絵の具（赤、黄緑、オレンジ、黄） 筆 トレー
- 子どもは入れ替わりながら、5、6名の子どもと保育者2名で行った。

子どもの様子や言葉

- ・ 室内でじっくりと行う絵の具遊びはほぼ初めてだったこともあり、初めは絵の具に触れるのに躊躇する子もいた。
- ・ 紙に描くことより、筆で掬った絵の具を手のひらや腕に乗せ、自分の身体に描いていた。
- ・ 手を握ったり擦り合わせたりしながら、色の変化を観察していた。
- ・ マーブル状の絵の具だらけになった自分の手のひらをじっと見つめていた。
- ・ 保育者がトレーに出した絵の具を、画用紙ではなくトレーのまま筆や手のひらで混ぜていた。
- ・ 「ぐるぐるだ」「ぺったん」「トントん」など描く様子を言葉にして表現していた。
- ・ 絵の具のついた模造紙の上を歩き、足で描く子もいた。
- ・ 1時間以上継続して飽きることなく絵の具に触れている子もいた。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・ 色で「描く」を想定して模造紙や画用紙を用意したが、紙に描くことよりも絵の具に触れて遊ぶ子も多かった。感触を味わいながら色が混ざっていく様子を観察していたので、夏の水遊びの時間を利用して、ボディーペイントなどの遊びを取り入れてみたいと思った。
- ・ 大きな紙を用意したことで、描いたものの上を歩く、腕ごと動かして大胆に描くなど、型にはまらない遊び方をしていた。
- ・ 紙だけでなく、散歩で拾った落ち葉や木の枝など、子どもたちが関心を持てる自然物を用意して描いても良いと感じた。
- ・ 初めての時には躊躇していた子も、繰り返すうちに遊び方が変わっていった。何度か繰り返して遊ぶうちに、遊び方も変わってくる。少しずつ環境に変化をもたせながら、同じ素材で繰り返し遊ぶことで探求活動が深まるのではないかと思った。
- ・ 描いた模造紙に木を貼り、紅葉する樹木に見立てた。子どもたちと葉っぱの形に切った画用紙を貼った。その上を歩いて、落ち葉の散歩を楽しむ姿もあった。普段の散歩のイメージにつながっているのを感じた。
- ・ 今回の絵の具遊びは、短くとも40分、長く遊んでいた子は70分以上もの時間、保育者が片付けるまで夢中になっていた。絵の具が子どもにとって、いかに魅力的な素材なのかを再認識した。

クラスとして

- ・ ただ感触を楽しんでいたのか、色自体への興味なのか知りたい。
- ・ 色自体を楽しむにはどんな方法があるか。
- ・ 色セロファンや光を使う遊びなども面白そう。
- ・ 汚れるのが苦手な子もいる。絵の具を楽しむには？

色水遊び

(11月中旬)

期待する経験

- ・ 少人数で行い、カップなどの道具也多めに用意することで、普段やっている色水遊びよりも、さらにじっくりと混色の面白さを感じる。
- ・ 色水を混ぜたり、移し替えたりしながら、色の変化や美しさを感じる。
- ・ 大きさや量などについても感覚的に感じ、試してみる。
- ・ 障子紙に色水カップを並べ、紙に移った色に気づく。
- ・ ボトルに色水を入れ、押し出すことで色水を飛ばして描く。障子紙についた色水が広がって混色する様を感じる。



環境設定

- ・ 準備物：色水が入ったジャグ 4個（赤、青、緑、黄） プラスチック透明カップ（大小） ボトル プラスチックスプーン 障子紙
- ・ 子どもは入れ替わりながら5名ほど。 保育者は2名で行った。

子どもの様子や言葉

- 混色せずに、カップに既に入っている色と同じ色を入れる子もいた。
- 一気に移し替えていた子も色水の量を加減して、ゆっくりと少しずつ色水の変化を見つめながら流し入れる姿があった。
- カップに一色ずつ入れ、一列に並べていた。障子紙の上に並べる子もいた。全ての色を並べると「いっぱい」とつぶやいていた。
- 混色しながら「あっ、黄色になった」「紫になった」と言葉にしていた。
- ボトルの水を障子紙に飛ばしていた。「せーの」と言って友達とタイミングを合わせて飛ばし「あか」「みどり」と伝え合っていた。
- 常に同じ2色を混ぜている子もいた。
- 全ての色水を少しずつカップに入れていた。
- 「どんな色になるか楽しみ」という保育者に「黄色だよ」などと予想して答えていた。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- 初めは混色せずに同じ色を入れる子が多いのは意外だった。遊ぶうちに自然と混色していた。混ぜることより、元の色自体を楽しんでいるように感じた。
- 気に入った色のカップを障子紙の上に並べていく姿もあり、子どもたちが、様々な色を作って作品のように並べているのではと感じた。
- 普段の色水遊びより少人数で行ったことで、友だちに取られたりカップを倒されたりすることを気にすることなく、自分の興味関心のままに遊ぶことができたように思う。
- 子どもたちが夢中で遊ぶ姿を見て、普段の色水遊びでも、もっと環境や人数などに工夫が必要だったと反省した。
- 一気に流し込む様子から、ゆっくりと少量ずつ混ぜていくというふうに行動が変化していた。徐々に変化していく色の様子を観察しているようだった。

クラスとして

- 少人数の方が個々の探究心に繋がる。
- ジャグを使ったのは良かった。綺麗に並んでいることで色自体を楽しむことができたのではないか。普段はタライを使うことが多かったが、水遊びに近くなってしまう。見た目の美しさも遊ぶたくなる要因だと思う。同じ理由で透明カップも良かった。色がわかりやすい環境が必要。

混色遊び

(1月下旬)

期待する経験

- 絵の具に直接触れるのが苦手な子もビニール袋の上から触れることで、混色や絵の具の感触を楽しめるのではないかな。
- 指絵の具をビニール袋に入れて混ぜることで、絵の具が混ざっていく様子を、ゆっくりと観察する。
- 触ることに抵抗のない子は、絵の具を絞り出し、所々混ざった絵の具を紙の上に出して触れてみる。
- 自分の手でも絵の具を混ぜる。
- 様々な色ができていくことを感じ、色の変化を楽しむ。



環境設定

- 準備物：指絵の具（赤 黄 青 緑 白）ジッパー付きビニール袋（中 小）ロール紙 ハサミ
- 子どもは入れ替わりながら5名ほど。 保育者は2名で行った。
- 指絵の具を2色入れたビニール袋を用意しておく。
- ビニールの上から手で揉んで混ぜた後、ビニール袋の角をハサミで切り、ロール紙の上に絞り出す。

子どもの様子や言葉

- 絵の具の入ったビニール袋を握ったり押したりして感触を楽しんでいる様子があった。また、そうすることで絵の具が動き、マーブル状になっていくのを見ていた。
- 少し大きめの袋は絵の具を混ぜることができなかった。
- 次々とビニール袋を手に取り、様々な色が入った袋に触れていた。
- 保育者が袋を絞って絵の具を出してみせると、同じように絞っていた。「いっぱい出てくるよ」「マヨネーズ」と保育者に伝えていた。
- 絵の具が手につくのを嫌がる子も、絞り出しは積極的に参加していた。
- マーブル状に出てきた絵の具を指先や掌で、完全に混ぜていた。掌で叩くようにして塗り広げる子もいた。
- 絵の具を絞り出し、それを掴んで手を握りながら指先を動かして混ぜ、感触を感じたり、色の変化を見つめていた様子があった。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- 絵の具に触れるのが苦手な子もいるため、ビニール袋に入れて混色を試みたが、絵の具がすぐに混ざらず、子どもの手の動きによって、部分的にマーブル状になりながら混ざっていくので、色の変化をより感じられたように思う。
- 絵の具の感触が苦手な子も、自分で手を拭きながら絞り出しを行っていた。好奇心をもち、苦手だがやってみたいという気持ちが伝わってきた。
- ビニール袋の中で完全に混色するのは難しく、マーブル状で絞り出してから自分の手でさらに混ぜていた。色水のようになんとなく混ざっていくのではなく、自分の意思で混ぜようとしていた。
- 紙の上に絵の具を塗り広げ、さらにその上に全く別の色を探して絞り出していた。色の違いやコントラストを感じているように思われた。

クラスとして

- 白などの薄色を増やし、白と赤、白と黒などの組みあわせを増やせば、より混色がわかりやすいかもしれない。
- マーブル状になってから混ざっていくという変化を感じられ、感触も楽しめたのは良かった。

雪絵の具 (3月初旬)

期待する経験

- 雪に絵の具をかけて遊び、白い雪が色づいていく面白さを感じる。
- 色から想像して、かき氷や料理に見立てて遊ぶ。



環境設定

- 準備物：雪を入れたタライ 絵の具（赤 緑 黄） 洗面器
ブルーシート タオル カップ 皿 おたま レンゲ 筆
- 子どもは入れ替わりながら、5、6名の子どもと保育者2名で行った。

子どもの様子や言葉

- ・透明カップの雪に絵の具をかけ、覗き込んで「見えた」と叫ぶ。
- ・筆で雪に描くように色をつける子がいた。
- ・絵の具をシロップに見立てて「おいしそう」「いちご」「かき氷楽しいね」友だちや保育者のところへ運び、「どうぞ」
- ・寝そべったり、かがんだりして、絵の具が雪に染みていく様子を観察していた。
- ・絵の具をかけてから、おたまで雪を潰す。
- ・絵の具をかける前にレンゲを上下させて差し込み、ザクザクという音を楽しむ。
- ・色がついた雪をおたまですくって移し替える。
- ・色がついた雪を自分の足や腕に滑らせる。
- ・手で雪を持ち上げて絵の具に入れる。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- 絵の具同士を混ぜたり、絵の具をカップごと雪にかける子はいなかった。雪をキャンパスのように描くベースとなるものと捉えていたのかもしれない。
- 結果的には色が混ざっていったが、子どもたちは雪の塊の様々な部分に色をつけていた。色を混ぜずに部分的にかけていく姿から、混色しようとは考えておらず、一色ずつ色付けしようとしていたと思われる。
- レンゲやおたまで絵の具をかける子と、筆だけを使う子に分かれた。レンゲは一気に色がつくが、筆は雪の表面に色がつき、溶けていくと共に色が広がっていく。その違いを感覚的にわかっていて、筆を選んでいたように感じた。
- 色からイメージして食べ物に見立て、友だちや保育者と見立て遊びに広がっていった。

クラスとして

- レンゲ以外にもスポイトやドレッシング入れなどに絵の具を入れても良かった。
- 雪だからこそ、滲む様子が楽しかったのではないか。違う方向から雪をかけていた。
- 白い雪だからこそよりわかりやすかったのかもしれない。透明よりも白い方がわかりやすい。透明だと色を入れる感覚が難しいのかも。

カラーセロハン遊び

(3月中旬)

期待する経験

- ・ カラーセロハンを通した光の色を知り、美しさを感じる。
- ・ カラーセロハン越しに周囲を見て、色の変化を楽しむ。
- ・ セロハンの感触を楽しみながら、色から想像したジュースごっこを楽しむ。



環境設定

- ・ 準備物：カラーセロハン（赤 青 黄 みどり） 透明プラスチックカップ 底をくり抜いた紙コップにセロハンを貼ったもの
- ・ 5、6名の子どもと保育者2名。戸外では園庭で遊んでいた子どもたちも参加。



子どもの様子や言葉

- ・セロハンを顔に当て、周囲の色が変わるのを「きいろ」「あお」と言葉にしていた。
- ・セロハンをくしゃくしゃにしてから顔に当てる子もいた。
- ・保育者がセロハンを窓に貼っていると、好きな色を持ってきて、一緒に貼っていた。
- ・窓に顔を近づけ、セロハン越しに外を見ていた。
- ・床に色が映っているのに気づき、触れたり寝そべったりしていた。「きれいだよ」「色あった」と伝えていた。
- ・紙コップの望遠鏡を覗き込んでいた。左右で違う色を当てる子もいた。
- ・セロハンをくしゃくしゃにしてカップに入れていた。カップを並べて眺めていた。
- ・園庭の滑り台の上からセロハンの望遠鏡で園庭を見下ろしていた。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・窓ガラスに貼ったセロハンに関心を持ち、セロハン越しに外を見ていた。ちょうど、はなぐみの子どもたちが外を通り、窓越しに友だちの顔の色がいつもと違うことをお互いに笑いあっていた。セロハンを手にとって遊ぶより、窓に貼られたセロハンの方に関心があるようだった。窓は光が入り、セロハンの色がより鮮明に見られるからかもしれないと思った。
- ・床に移った色に気づいてからは、それに触れようとしていた。「あれ」とつぶやきながら手を大きく動かし、寝そべっていた。寝そべると自身の体にも色が映るのを不思議そうに見ていた。白いものをいくつか用意し、色を写して遊ぶのも楽しいと思った。
- ・セロハンを顔に当て、視界の色が変わるのを楽しんでいた。紙コップの望遠鏡を作ったが、思ったより関心が薄く、紙コップよりもセロハンをじかに顔に当てる方を楽しんでいた。紙コップは容器としての捉え方になり、赤いセロハンの紙コップはいちごジュース、というように、ジュース遊びになっていた。1歳児クラスは、素材そのものの楽しみ方を考えた方が良かった。

クラスとして

- ・自然光がセロハンを通して違う色になることで、いつもと違う色だと感じ、新鮮に思えたのではないか。混色でなくともその物の色を楽しむことが楽しい時期。
- ・貼ってあり、動かないのが良かった。以前、光を動かして遊んだ時には追いかける遊びになってしまった。固定することで色として感じられた。

まとめ

- 色水遊びや絵の具遊びは普段からよく行なっていたが、多くの子どもに経験して欲しい思いや、やりたい子みんなにやって欲しいという思いから、活動に参加する人数を特に決めていなかった。今回の経験から、5名程度の少人数で活動することで、子どもがいつも以上に夢中になって遊ぶ姿が見られた。毎日の保育に、積極的に取り入れることで、やりたい子全員が参加できる機会を設けるようにし、活動自体は少人数で行う工夫をしていきたいと思った。
- どの活動も1時間以上もの時間、遊び続ける子も多く、色への関心の深さを感じた。遊んでいる間は、ほぼ無言で、真剣な表情の子どもが多かった。
- 様々な素材を用意することで、探究心も深まっていく。環境設定の重要性を改めて感じた。
- 色を並べる、混ぜる、触れるなど、同じ活動でもそれぞれの遊び方があった。一人ひとりの子どもに合った環境設定をすることで、さらに探究心を深めることができる。その子の今を読み解きながら、個々に対応した環境設定も考えていきたい。
- 1歳児は様々な形や環境で色に触れることで、感じ、学んでいるのかもしれないと感じた。多くの色に出会うことができる遊びを継続していきたい。